

令和2年度 自己評価書・学校関係評価書

令和3年3月10日

真庭市立北房こども園

園長 池田 由子 印

1. 北房こども園の教育保育目標

心身ともにたくましく心豊かな子どもの育成

- ・ 明るく元気な子ども
- ・ 友達と遊べる子ども
- ・ 考える子ども

2. 本年度の重点目標（課題）

- 落ち着いた生活環境づくり
  - ・ 情緒の安定を図り、夢中になって遊びこむ力を育てる。
- 豊かな心づくり・すこやかな体づくり
  - ・ 心も体もたくましく生きる力を育てる。
- 総合力を活かした教育（園・小・中の連携、家庭、地域との連携）
  - ・ 幼児期から児童への円滑な接続ができるよう就学前教育の充実
  - ・ 家庭、地域と共に育てる。
- 職員の資質向上
  - ・ 子ども一人一人にあわせた教育支援を考え、共に育つ心の教育の充実。

### 3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価	評 価 委 員 評 価 (学校評議員評価)
教育課程・指導計画	職員で共通理解し、園児主体の保育計画を立案し実践するが保育を振り返り実態に即した計画となるよう見直しも必要である。	3	3
行事	行事は、縮小して行ったが、園児の育ちに繋がる大切な部分は工夫した環境の中で計画した。	3	3
組織・運営	職員間の報告・連絡・相談を徹底し、お互い理解し協力し合いながら職務に当たった。	3	3
学級経営	園児との信頼関係を大切に、子どもの姿を丁寧に捉え保育実践に努めた。職員間で協力し合う環境維持に努めた。	3	3
特別支援教育	専門機関と連携しながら園児の特性を理解し保護者と連携し個々に合った支援に繋がった。	3	3
安全管理・保健指導	感染症予防への徹底と保育現場に合った対応や対策に取り組んだ。避難訓練、不審者訓練を通して安全教育の意識が高まってきた。	3	4
研修（資質向上）	3年目研修、新採研を通して園内研修を重ねお互いの学びを共有しながら自己研鑽に努めた。	3	3
情報提供・保護者・地域との連携	保護者へ園だより、学年だより、HPで園の様子を伝える。地域の人材、環境を活かす計画を話し合い検討することが必要。	3	3
小学校との接続・連携	前半の交流事業は見送ったが、後半は計画に沿って実施できた。切れ目のない支援と就学に向けて不安なく過ごせるよう職員間で連携をしていく。	3	3
子育て支援	保護者が相談しやすい園内の環境を整えていく。園開放の実施。	3	3
食育の推進（給食）	調理員と保育教諭が連携を図り、食育計画に沿った食育指導に取り組んだ。	3	3
食事の提供（調理）	安心安全な給食提供。アレルギー対応の徹底。職員同士の連携。	3	3

### 4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価	評 価 委 員 評 価 (学校評議員)
挨拶の習慣化	挨拶については保護者の意識が高い。挨拶は温かい繋がりを築いていくことを保護者に伝え習慣化していく。	3	4
規則正しい生活リズムの確立	基本的な生活習慣の定着は、家庭との連携を大切に個々に応じた対応をする。	3	4

## 5. 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

- ・園児の内面に丁寧に関わっていくことで、保育者との愛着関係、信頼関係を築き、園児が安心して園生活を送り、遊びを通して一人一人が主体的に活動し、自己表出できるようになり園児の育ちに繋がった。
- ・研修や情報交換、個別の相談など、園児を中心にした職員間の連携と教育保育内容の課題や改善点を話し合いながら環境構成の工夫をし、遊びの計画を重ねてきたことが、職員のより良い保育実践へと意識が高まったように思う。
- ・異年齢児交流の「わくわくタイム」、各クラスでの「チャレンジタイム」などの発達過程に沿った遊びの場や個々を大切にした応答的援助に努めた。その結果として、一人一人の育ちや個性・特性に応じた園生活が送れているという評価につながったと考えられる。
- ・コロナ禍での制約が多い中、日々、協議を重ね工夫した安心安全な保育には一定の評価が得られたが、状況を把握しながら小学校、地域との連携を保護者も期待している。
- ・園庭が狭い環境であるが、園児が自ら体を動かしたくなる環境の工夫や運動遊びの計画等、日々の積み重ねが、園児の体力の向上に繋がっていくことを意識し、今後の計画を見直したい。

## 6. 評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

- ・北房こども園は、開園3年目となり、地域の方からも期待が大きい。今年度は、コロナ禍で、計画していた地域の方との交流事業も中止にせざるを得なかった。園児にとって地域の方との交流体験は、育ちの中で貴重な体験となり、園児の生活を豊かにし、内面の成長にもつながる。来年度は、様々な状況に対応しながら、地域の方と連携をし、交流が進められるよう話し合いが必要である。
- ・園児の体力面については、園庭が狭く多くの課題がある。職員間で話し合い、第2園庭、近隣の活動できる場所等を利用し、園児の体力の向上を目指していく必要がある。
- ・園児が安心感と信頼感を持って過ごしていることに高い評価をいただいた。今後も、園児を肯定的に捉え、頑張りや良いところを認められながら友達と育ち合う温かい人間関係づくりに努め、豊かな心を育てる教育保育に取り組んでいきたい。
- ・小学校との接続については、アンケート結果からも、保護者が強い関心を持っていることがわかる。園児が小学校を身近に感じ、期待を持ちながら、小学校へスムーズに移行が行えるように連携のあり方を職員間で検討したい。

学校評議員・園評価基準

評 価	基 準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である